

第75回 横浜市廃棄物減量化・資源化等推進審議会

日時 令和3年11月29日(月)
13時30分から15時まで
会場 横浜市役所18階 さくら14
※オンライン形式

次 第

1 開会

2 議題・報告

- (1) 会長選出・会長職務代理選出について
- (2) 廃棄物処理を取り巻く社会経済状況について (資料1)

横浜市廃棄物減量化・資源化等推進審議会委員名簿

(五十音順、敬称略)

令和3年11月15日現在

氏名	役職
おおいし みなこ 大石 美奈子	日本消費生活アドバイザー・ コンサルタント・相談員協会副会長
おおさこ まさひろ 大迫 政浩	国立環境研究所 資源循環領域 領域長
おおもり のぞむ 大森 望	神奈川県弁護士会 弁護士
おのだ ひろし 小野田 弘士	早稲田大学理工学術院大学院 環境・エネルギー研究科 教授
さきた ゆうこ 崎田 裕子	ジャーナリスト・環境カウンセラー
さとう あけみ 佐藤 明美	南区環境事業推進委員連絡協議会 副会長
しのき みきこ 篠木 幹子	中央大学 総合政策学部教授
たけうち とく なお 武内 得真	日本チェーンストア協会 関東支部 事務局長
のむら のりひこ 野村 宜彦	横浜商工会議所 専務理事
ほり いさお 堀 功生	横浜市町内会連合会 (保土ヶ谷区連合町内会長連絡会会長)
ほんだ ひろと 本多 寛人	消費生活推進員戸塚区代表
もらい とみこ 桃井 富子	港北3R夢サポーター 会長

廃棄物処理を取り巻く社会経済状況について

令和3年11月29日
横浜市 資源循環局



目次

1 廃棄物処理の変遷

- (1) ごみ急増の時代(高度経済成長～)
- (2) 横浜G30プラン
- (3) ヨコハマ3R夢プラン

2 新たな課題への対応

- (1) SDGsの取組や脱炭素化の推進
- (2) 将来を見据えた施設整備
- (3) 安定した収集運搬と災害時の対応



1 廃棄物処理の変遷

(1) ごみ急増の時代(高度経済成長～)

- 大量生産、大量消費、大量廃棄の時代
- 「ごみ戦争」をはじめとした、ごみ焼却工場・最終処分場の建設反対運動が各地で社会問題化

<横浜市の対応>

取組内容	爆発的なごみの増加に対応した全量焼却・全量埋立
収集・運搬	・収集・運搬体制の構築・強化 ・粗大ごみの有料化、缶・びん・ペットボトルの分別収集の開始
処理・処分	・ごみ焼却工場を順次整備(7工場体制・6工場稼働) ・神明台処分地 埋立開始 ・南本牧第2ブロック廃棄物最終処分場 埋立開始



1 廃棄物処理の変遷

(2) 横浜G30プラン(H15~H22)

- 全国的に最終処分場がひっ迫
- 循環型社会形成推進基本法や各種リサイクル法の成立

<横浜市の対応>

取組内容	・ごみの減量・リサイクル 目標の「ごみ量30%削減」を2年で達成し、H22年には43%削減
収集・運搬	・分別収集品目の拡大（5分別→10分別）、分別排出の徹底 プラスチック製容器包装、古紙・古布の分別収集の開始 ・ふれあい収集の開始 ・事業系ごみの減量・リサイクルの推進
処理・処分	・7工場体制・6工場稼働から、5工場体制・4工場稼働へ 2工場廃止：栄・港南、1工場休止：保土ヶ谷 ・最終処分場を10年延命化(南本牧第2ブロック廃棄物最終処分場)

1 廃棄物処理の変遷

(3) ヨコハマ3R夢プラン(H22~)

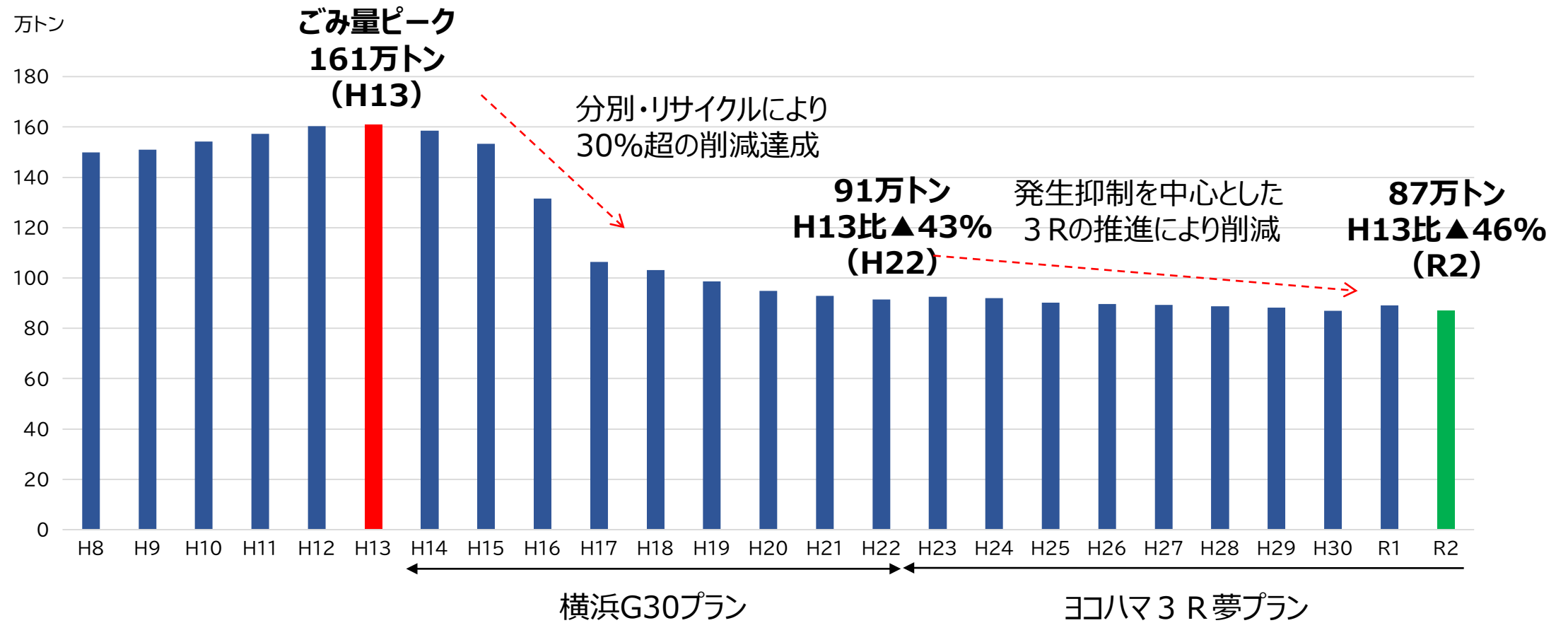
- リサイクルにリデュース、リユースを加えた「3R」の取組へ
- 京都議定書を契機とした地球温暖化への関心の高まり

<横浜市の対応>

取組内容	<ul style="list-style-type: none">• 3Rの中でも、とくにリデュース(発生抑制)を中心とした施策の展開• ごみ減量とCO₂の削減を目標(CO₂実績 R2:11.3%削減(H21比))
収集・運搬	<ul style="list-style-type: none">• マイバッグ・マイボトルの利用など、環境にやさしいライフスタイルの転換を推進• 燃やすごみの収集を週3回から2回に変更• 古紙・古布の資源集団回収100%実施
処理・処分	<ul style="list-style-type: none">• 神明台処分地 埋立終了• 南本牧第5ブロック廃棄物最終処分場 埋立開始• 南本牧第2ブロック廃棄物最終処分場 埋立終了

1 廃棄物処理の変遷

【参考】ごみ量の推移



2 新たな課題への対応

《課題》

- 世界共通の目標であるSDGsや脱炭素社会の実現に向けた対応
- 将来にわたって市民生活と事業活動を支えるごみ処理の継続

《主な内容》

(1) SDGsの取組や脱炭素化の推進

- ① プラスチック対策
- ② 食品ロス削減
- ③ ごみ焼却工場における脱炭素化の推進

(2) 将来を見据えた施設整備

- ① 老朽化した施設の整備
- ② 最終処分場

(3) 安定した収集運搬と災害時の対応

- ① 安定した収集運搬と災害時の対応
- ② 超高齢社会に対応したごみ収集

2 新たな課題への対応

《課題》

- 世界共通の目標であるSDGsや脱炭素社会の実現に向けた対応
- 将来にわたって市民生活と事業活動を支えるごみ処理の継続

《主な内容》

(1) SDGsの取組や脱炭素化の推進

- ① プラスチック対策
- ② 食品ロス削減
- ③ ごみ焼却工場における脱炭素化の推進

(2) 将来を見据えた施設整備

- ① 老朽化した施設の整備
- ② 最終処分場

(3) 安定した収集運搬と災害時の対応

- ① 安定した収集運搬と災害時の対応
- ② 超高齢社会に対応したごみ収集

2 新たな課題への対応

(1) SDGsの取組や脱炭素化の推進

① プラスチック対策 ～世界・国の動向～

・令和元年6月:G20大阪サミットにて「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を共有

「海洋プラスチックごみによる新たな汚染を2050年までにゼロ」を目指す

・令和2年7月:全国の小売店舗で、レジ袋有料化を義務化

・令和2年10月:国が「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロ」とすることを宣言

中期目標として2030年度までにCO₂排出量46%削減

・令和3年6月、プラスチック資源循環促進法が成立

①製造事業者には、環境に配慮した設計への転換を求める。

②販売事業者には、ストローやスプーンなど12品目の

プラスチック製品について有料化や代替素材への転換を義務付け

③市町村には、市民への働きかけや分別収集に努めることを求める。



海岸に打ち上げられたクジラ

事業者	製品 (12品目)
百貨店、スーパー、コンビニなど	フォーク、スプーン ナイフ、マドラー、ストロー
ホテルなど	ヘアブラシ、クシ、カミソリ 歯ブラシ シャワーキャップ
クリーニング店 など	ハンガー 衣類用カバー

削減義務の対象業種と品目

・令和3年11月:COP26で「パリ協定」の努力目標(1.5℃に上昇抑制)が、世界共通の目標基準に格上げ 9

2 新たな課題への対応 (1) SDGsの取組や脱炭素化の推進

① プラスチック対策 ～本市の取組～

- ア スプーンやストロー等の使い捨てプラスチック削減の働きかけ
- イ 製造・販売事業者による、再生材や代替素材への転換の支援
- ウ 事業者と連携したプラスチック対策の推進
- エ 海洋汚染防止の観点による、ごみのポイ捨て・不法投棄の防止



ア イオングループと連携したプラスチック削減の働きかけ



イ facebook等での代替素材製品の紹介



ウ セブン-イレブン・ジャパン等と連携したペットボトルリサイクル事業



エ プラスチック対策に関する啓発動画「プラスチックごみってどこへいくの？」

2 新たな課題への対応

《課題》

- 世界共通の目標であるSDGsや脱炭素社会の実現に向けた対応
- 将来にわたって市民生活と事業活動を支えるごみ処理の継続

《主な内容》

(1) SDGsの取組や脱炭素化の推進

- ① プラスチック対策
- ② 食品ロス削減
- ③ ごみ焼却工場における脱炭素化の推進

(2) 将来を見据えた施設整備

- ① 老朽化した施設の整備
- ② 最終処分場

(3) 安定した収集運搬と災害時の対応

- ① 安定した収集運搬と災害時の対応
- ② 超高齢社会に対応したごみ収集

2 新たな課題への対応

(1) SDGsの取組や脱炭素化の推進

② 食品ロス削減 ～世界・国の動向～

《世界の動向》

- SDGsで「2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減」が掲げられており、「気候変動対策」や「飢餓」、「貧困」など、複数の社会課題に関係する。

《国の動向》

- 令和元年10月、「食品ロスの削減の推進に関する法律」が施行
⇒ 国、地方公共団体、事業者、消費者等の多様な主体が連携し、国民運動として食品ロスの削減を推進

2 新たな課題への対応

(1) SDGsの取組や脱炭素化の推進

② 食品ロス削減 ～本市の取組 1～

ア 地域での説明会や学校での出前教室、焼却工場見学での働きかけ

イ 動画やSNS、パネル、チラシ等を活用した普及啓発

ウ 食品ロス削減を働きかけるイベントの開催

エ 小売店と連携した「てまえどり※キャンペーン」の啓発

※ 手前に陳列された販売期限間近の商品を積極的に選ぶ購買行動

オ フードバンク団体の支援



ア 焼却工場の見学



イ 食材の無駄をなくす調理方法の紹介



ウ 無印良品港南台バースにおける食品ロスを減らす調理実演



エ コンビニエンスストアにおける「てまえどり」の呼びかけ



オ 横浜F・マリノスの試合にあわせたフードバンク団体との取組

2 新たな課題への対応 (1) SDGsの取組や脱炭素化の推進

② 食品ロス削減 ～本市の取組 2～

カ 食べきれなかった料理の「持ち帰り」などに取り組む「食べきり協力店」の推進

キ 優良事業者を「横浜市 食の3Rきら星活動賞」として表彰

ク 国際機関等と連携したオンラインイベントの開催

ケ 飲食店における行動デザイン(ナッジ)を活用した食べ残しを減らす取組の実証実験



カ 食べきり協力店のロゴ



キ 優良事業者の表彰
(キリンビール(株)横浜工場)



ク 国際機関と連携したオンラインイベント
「WORLD FOOD NIGHT2021 with 横浜」



ケ 行動デザインを活用した実証実験
(アロハテーブル コレットマーレみなとみらい) 14

2 新たな課題への対応

《課題》

- 世界共通の目標であるSDGsや脱炭素社会の実現に向けた対応
- 将来にわたって市民生活と事業活動を支えるごみ処理の継続

《主な内容》

(1) SDGsの取組や脱炭素化の推進

- ① プラスチック対策
- ② 食品ロス削減
- ③ ごみ焼却工場における脱炭素化の推進

(2) 将来を見据えた施設整備

- ① 老朽化した施設の整備
- ② 最終処分場

(3) 安定した収集運搬と災害時の対応

- ① 安定した収集運搬と災害時の対応
- ② 超高齢社会に対応したごみ収集

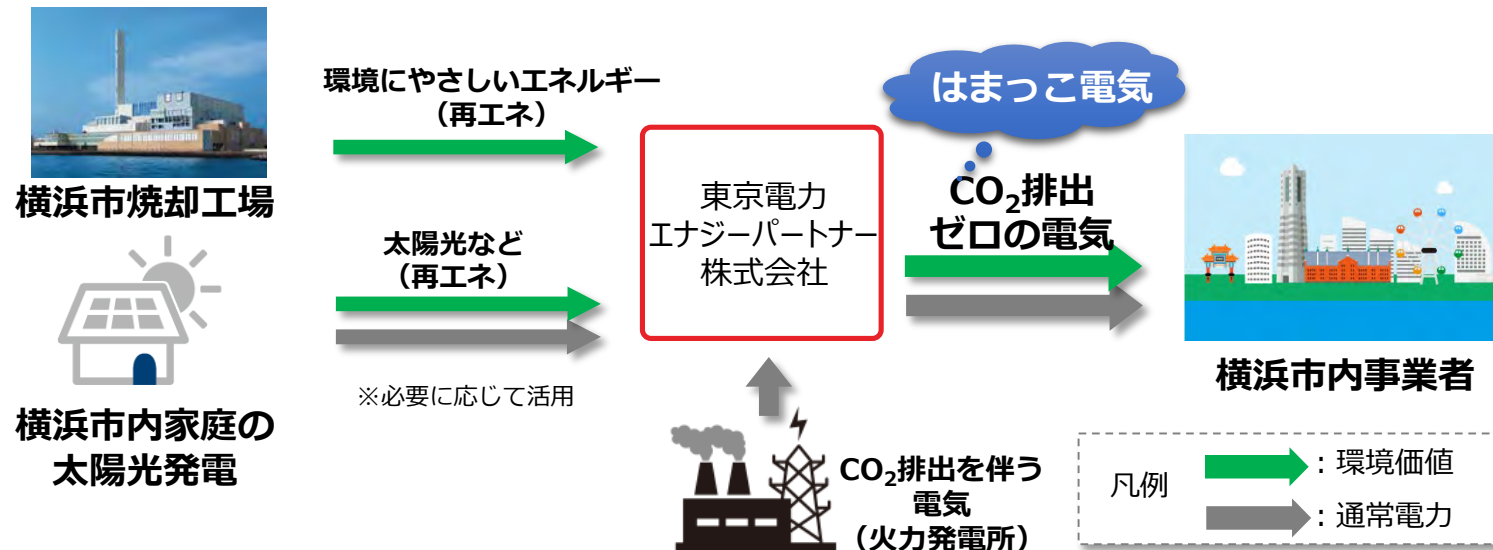
2 新たな課題への対応

(1) SDGsの取組や脱炭素化の推進

③ ごみ焼却工場における脱炭素化の推進

- ごみ焼却工場で作られる電気は、化石燃料を使用しない「環境にやさしいエネルギー」
(市内4つのごみ焼却工場の発電量は、約12万世帯の消費電力量に相当)
環境にやさしいエネルギーを市内で活用することで、脱炭素社会の実現・市内経済活性化に貢献
- CO₂を回収し有効利用する技術の研究など、民間事業者を中心に技術開発が進められている。

はまっこ電気：ごみ焼却工場で作られる環境にやさしいエネルギーの地産地消



2 新たな課題への対応

《課題》

- 世界共通の目標であるSDGsや脱炭素社会の実現に向けた対応
- 将来にわたって市民生活と事業活動を支えるごみ処理の継続

《主な内容》

(1) SDGsの取組や脱炭素化の推進

- ① プラスチック対策
- ② 食品ロス削減
- ③ ごみ焼却工場における脱炭素化の推進

(2) 将来を見据えた施設整備

- ① 老朽化した施設の整備
- ② 最終処分場

(3) 安定した収集運搬と災害時の対応

- ① 安定した収集運搬と災害時の対応
- ② 超高齢社会に対応したごみ収集

2 新たな課題への対応

(2) 将来を見据えた施設整備

① 老朽化した施設の整備

- ごみ焼却工場をはじめとした廃棄物処理施設は老朽化が進んでおり、整備を進めることが必要
- 現在休止している保土ヶ谷工場の再整備を実施

本市の主な廃棄物処理施設

ごみ焼却工場	4か所	鶴見、旭、金沢、都筑 ※ 保土ヶ谷工場はH22年度から休止し、 中継輸送施設として稼働中
最終処分場	1か所	南本牧第5ブロック
資源選別センター	4か所	鶴見、金沢、緑、戸塚
収集事務所	19か所	各区(ごみ)、北部事務所(し尿)
輸送事務所	3か所	神奈川、戸塚、神明台



保土ヶ谷工場



資源選別センター

2 新たな課題への対応

《課題》

- 世界共通の目標であるSDGsや脱炭素社会の実現に向けた対応
- 将来にわたって市民生活と事業活動を支えるごみ処理の継続

《主な内容》

(1) SDGsの取組や脱炭素化の推進

- ① プラスチック対策
- ② 食品ロス削減
- ③ ごみ焼却工場における脱炭素化の推進

(2) 将来を見据えた施設整備

- ① 老朽化した施設の整備
- ② 最終処分場

(3) 安定した収集運搬と災害時の対応

- ① 安定した収集運搬と災害時の対応
- ② 超高齢社会に対応したごみ収集

2 新たな課題への対応

(2) 将来を見据えた施設整備

② 最終処分場

- 最終処分場は、ごみの収集・運搬・処理・処分を継続するうえで、欠かすことのできない重要な施設
- 南本牧第5ブロック廃棄物最終処分場は本市唯一の処分場であり、長く大切に使用していくことが求められている →ごみの削減に加え、焼却灰の資源化を実施

《南本牧第2ブロック廃棄物最終処分場(埋立終了)》
埋立期間:平成5年～平成30年(25年間)

《南本牧第5ブロック廃棄物最終処分場》
埋立期間:平成29年～



2 新たな課題への対応

《課題》

- 世界共通の目標であるSDGsや脱炭素社会の実現に向けた対応
- 将来にわたって市民生活と事業活動を支えるごみ処理の継続

《主な内容》

(1) SDGsの取組や脱炭素化の推進

- ① プラスチック対策
- ② 食品ロス削減
- ③ ごみ焼却工場における脱炭素化の推進

(2) 将来を見据えた施設整備

- ① 老朽化した施設の整備
- ② 最終処分場

(3) 安定した収集運搬と災害時の対応

- ① 安定した収集運搬と災害時の対応
- ② 超高齢社会に対応したごみ収集

2 新たな課題への対応

(3) 安定した収集運搬と災害時の対応

① 安定した収集運搬と災害時の対応

災害時等においても、安定したごみの収集・運搬・処理・処分を継続

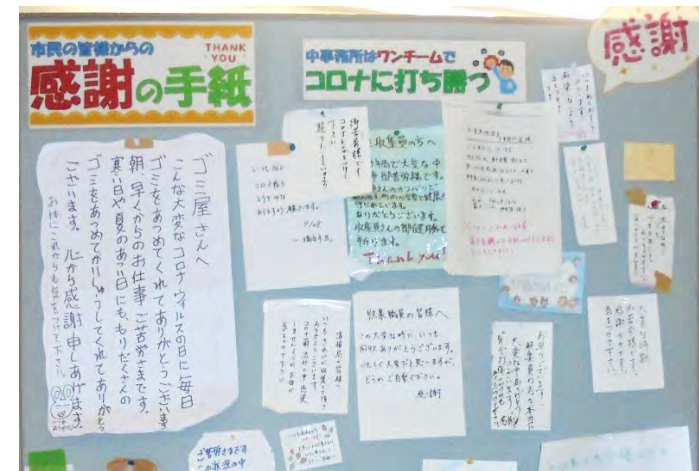
◆ 新型コロナウイルス感染症への対応

- ・ダイヤモンドプリンセス号への対応では、し尿を本市職員が収集するとともに、船内から排出されるごみを本市ごみ焼却工場にて焼却処理
- ・コロナ禍で、家庭ごみの量が大幅に増加する中、感染対策に万全を期し、1日たりとも収集を止めることなく継続

◆ 災害発生時、他都市へ災害復旧支援隊として職員を派遣

- ・東日本大震災(仙台市・陸前高田市)
- ・熊本地震(益城町)
- ・平成27年9月関東・東北豪雨(常総市)
- ・東日本台風(川崎市)
- ・平成30年7月豪雨(東広島市・倉敷市)等

◆ 令和元年に台風被害を受けた金沢区幸浦・福浦地区において、災害廃棄物を処理



2 新たな課題への対応

《課題》

- 世界共通の目標であるSDGsや脱炭素社会の実現に向けた対応
- 将来にわたって市民生活と事業活動を支えるごみ処理の継続

《主な内容》

(1) SDGsの取組や脱炭素化の推進

- ① プラスチック対策
- ② 食品ロス削減
- ③ ごみ焼却工場における脱炭素化の推進

(2) 将来を見据えた施設整備

- ① 老朽化した施設の整備
- ② 最終処分場

(3) 安定した収集運搬と災害時の対応

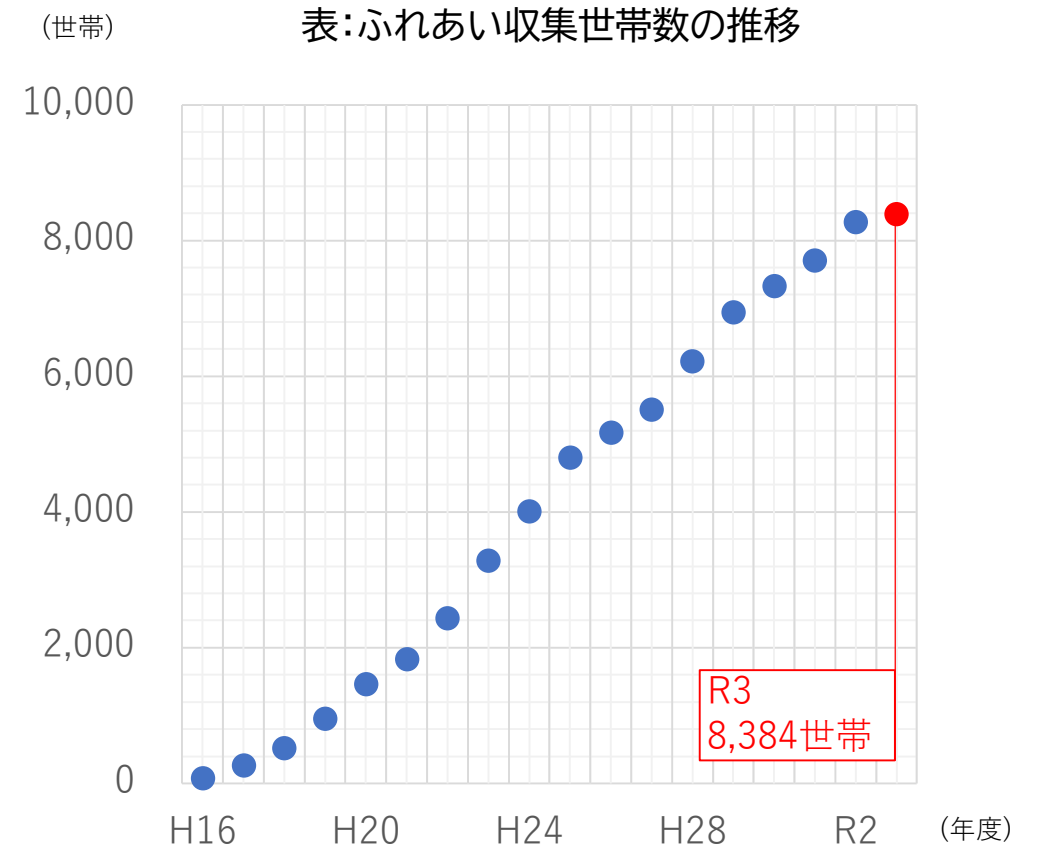
- ① 安定した収集運搬と災害時の対応
- ② 超高齢社会に対応したごみ収集

2 新たな課題への対応

(3) 安定した収集運搬と災害時の対応

② 超高齢社会に対応したごみ収集

◆ 超高齢社会の進展に伴い、ふれあい・持ち出し収集のニーズが増加する中でも着実に対応



○ 「ヨコハマ3R夢プラン」策定から10年以上が経過して 廃棄物処理に求められる役割が変化

大量生産・大量消費・大量廃棄に対応した全量焼却・全量埋立



ごみの分別・リサイクルの徹底、リデュースを中心とした施策の展開



SDGs、脱炭素社会の実現、プラスチック対策、食品ロスの削減への対応

○ 安定したごみの収集・運搬・処理・処分を継続するうえで 様々な課題への対応が必要

施設の老朽化、超高齢社会への対応、災害への備え など